

## 予定価格事後公表を拡大(土木Ⅱ等級)

京都府は、建設工事の入札で予定価格事後公表の対象を土木一式Ⅱ等級向け(2500万円以上)の一部案件に拡大する。対象工事選定や業界周知などの期間を踏まえ、夏頃をめどに試行。15年7月から全ての案件で予定価格の事前公表を実施していたが、24年9月から4500万円以上の総合評価方式の一部で事後公表を試行。26年4月から総合評価以外の案件でも適用している。28年度は11月末現在で4500万円以上の工事191件のうち、98%にあたる187件で事後公表を採用している。予定価格の公表方法は、各都道府県で対応にばらつきがあり、28年3月末現在で、事前公表15団体、事前・事後公表併用17団体、事後公表15団体となっている。近畿2府4県では、京都府、和歌山県が事前・事後公表併用、その他が事後公表を採用している。

### 【企業数】

	H25	H26	H27	H28
I 以上	224 16%	236 16%	233 17%	246 18%
II	187 13%	187 13%	197 14%	201 14%
III	274 19%	266 18%	248 18%	259 19%
IV	273 19%	281 19%	279 20%	299 21%
V	482 33%	493 34%	428 31%	394 28%
計	1,440	1,463	1,385	1,399

(各年4.1時点、下段は構成比)

### 【等級別発注数】

	H25	H26	H27	H28
I 以上	322	317	267	226
II	189	206	201	129
III	292	239	208	153
IV	199	171	178	144

(H28は12月末時点)

### 【Ⅱ等級入札状況】

	H25	H26	H27	H28
発注件数	189	206	201	129
参加者数	11.8	9.7	14.1	16.4
↓件数	15	26	54	45
↓発生率	7.9%	12.6%	26.9%	34.9%
落札率	86.1%	88.6%	86.5%	88.3%

(平均,H28は12月末時点)

## 低入札価格制度基準の見直し

工事の低入札価格調査基準では、直接工事費に含まれる労務費の算入率を現在の95%から100%に変更。これにより、直接工事費の算入率は現在の95%から97%となり、調査基準価格の平均値は予定価格の約90%に上昇する。調査・設計業務は、測量業務の諸経費と土木コンサルタントの一般管理費等の算入率を45%から48%にそれぞれ引き上げる。工事・業務とも4月1日以降に入札公告する案件から適用する。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08\\_hh\\_000397.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000397.html)

### ○工事

#### 現行

#### 【範囲】

予定価格の  
7.0/10~9.0/10

#### 【計算式】

- ・直接工事費×0.95
- ・共通仮設費×0.90
- ・現場管理費×0.90
- ・一般管理費等×0.55
- ・上記の合計×1.08

#### 平成29年3月29日

#### 【範囲】

予定価格の  
7.0/10~9.0/10

#### 【計算式】

- ・**直接工事費×0.97**
- (機械経費 0.95
- 労務費 1.00**
- 材料費 0.95)
- ・共通仮設費×0.90
- ・現場管理費×0.90
- ・一般管理費等×0.55
- ・上記の合計×1.08

### 京都府最低限価格見直し、α値1.0 当面運用

京都府では、最低制限価格の上昇によって、「α」の効果が制限されることが見込まれるため、当面「α=1.0」として運用。

## 公共工事設計労務単価等の改定

京都府では、H10年より労務単価は下がり続けていましたが、近年では上昇傾向にあります。

職種	H10.4	H24.4	H29.3
普通作業員	17,700	13,100	18,100
鉄筋工	23,700	16,200	21,700
大工	26,300	16,100	20,600
50種平均	22,656	17,231	22,650

## 京都サンダーからお得なサービスがスタート!

■ IT導入補助金制度を活用することで、中小企業・小規模事業者の方々がITツール(ソフトウェア、サービス等)を導入する経費の一部が補助金対象となります。

### 制度利用のポイント

- 補助金は最大100万円(販売価格の2/3まで/下限20万円)
- 申請・交付決定後の購入なので安心!
- 対象は中小企業者等(主にサービス業)

サービス等生産性向上  
IT導入支援事業補助金を  
ご活用ください!

最大  
100万円  
補助  
平成29年  
6月30日  
まで



土木工事構築システム  
Gaia9



工事原価管理ソフト  
MIYAシステム



詳しくは、京都サンダーまでお問い合わせください。

## 主任技術者の登録制度 導入へ

国土交通省は、監理技術者・主任技術者の保有資格や実務経験の登録制度を創設する方針を固めた。登録制度で、資格を持たずに実務経験で要件を満たす主任技術者らの全体像を把握し、重大な不正行為が発覚した際には登録取り消しなどの処分を与える。公共工事で現場配置時に行う実務経験の要件確認、建設業許可や経営事項審査の手続きの効率化にもつなげる。登録は更新制とし、更新時に講習の受講を義務付けることも検討する。

### 京都サンダー ITニュース

#### ◆ 施工者のための電子小黒板導入ガイド 日建連

電子小黒板とは、スマートデバイス上で動作するアプリケーションによって生成した電子的な小黒板画像をいう。従来の物理的な小黒板を写し込んだ写真と同等の工事写真を撮影できる。  
<http://www.nikkenren.com/rss/pdf/1029/kokuban.pdf>

#### ◆ デジタル工事写真の小黒板情報電子化対応 ソフトウェア一覧 JACIC

<http://www.cals.iacic.or.jp/CIM/sharing/index.html#con03>

#### ◆ 「CAD製図基準」

「CAD製図基準に関する運用ガイドライン」

改定 3月29日

<http://www.cals-ed.go.jp/>

## 建設ディレクター育成講座 第9回～第12回

3月7日(火)の第9回から、3月28日(火)の第12回目まで開催した「建設ディレクター育成講座」の様子をご紹介します。

### 建設コストマネージャーコース(全4回)

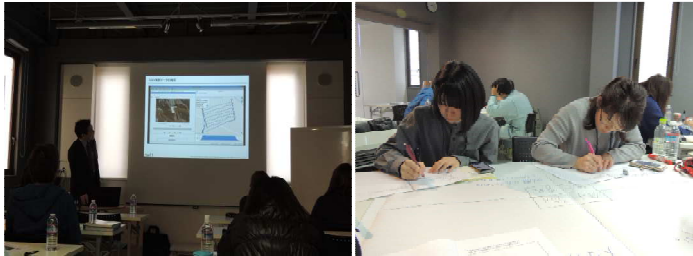
#### ■3月7日(火) 第9回 (午前・午後)

「建設業におけるIT活用について」

電子納品のファイル構成と基準類の関係、工事関係書類や写真の管理、図面作成データに関する解説がありました。引き続き、実際に積算ソフトを使って、電子小黒板を利用した省力化・効率化について学習。最新技術に関連する情報を、多く学ぶことができた講義となりました。

「SWOT分析 建設業界と自社の強みを考える」

SWOT分析、クロス分析についての解説の後、建設業界や自社について分析を行いました。またグループワークでは、それぞれ個人が持つ能力について考察し、発表。経営者側の視点で分析を行うことで、思い込みにとらわれることなく、多角的な視点を持つ重要性を学びました。



3月14日(火)以降の2回にわたる講義では、一般社団法人コスト管理士協会による「コスト管理実務演習①②」が行われました。

#### ■3月14日(火) 第10回 (午前・午後)

#### ■3月21日(火) 第11回 (午前・午後)

会社にとって必要な数字を知ること、出来高(売上)をとらえる方法を知ること、グループ化という手法で、コスト管理を行う必要性を理解しました。また、コスト管理に必要な3つの管理を一元管理することで、現場の流れに対応したコスト管理を実現できるということ、さらに実行予算作成の重要性や作成のポイントを学習しました。

その上で設計書を読み込み、実行予算を作成、実際に原価管理システムのソフトを使用し、原価管理についての解説がありました。その後実際に4日間の日報を作成、日報の重要性を理解しました。さらに原価集計・損益の確認・明日の予定(採算ベース)の操作方法を確認、コスト管理について学習。

そして最後には、一般社団法人コスト管理士協会による建設コストマネージャー終了試験が行われ、無事、全員合格となりました。



「コスト管理が分かれば現場が分かる」  
建設コストマネージャーとは、  
建設業におけるコスト管理の考え方を広く伝えるための資格です。  
現場監督のサポート役を育成し、現場の負担を軽減。建設コストも軽減!

最終講座では、締めくりにふさわしく、建設ディレクターの目的、役割、スキルに関する講義が行われました。

#### ■3月28日(火) 第12回 (午前・午後)

「建設業のコスト管理概論」

建設業の基本的機能を細部に分けて解説。現場とは何か、何が必要であるか再確認した後、企業経営と現場運営の相違を学びました。損得の定義の基本知識として、制度会計と管理会計の違いを明確にした後、3種の参考資料を用いて財務三表の解説がありました。また経済性分析では、意思決定の支援を目的とした考え方があること。また、経済性の比較原則を学習しました。

その後、実際の事例問題を解くことで、専門的用語や会計的思考方に関する理解を深めました。最後には、基本的スキルであるコミュニケーション力に関して、相手の心に自分の意思を届けるうえで大切な心構えを学習して、人間関係を向上させるために必要なものとは何かを考察しました。



全12回、約三か月にわたる建設ディレクター育成講座が無事終了しました。最後まで懸命に取り組んで下さった受講生の皆さま、そして、それぞれの講座で熱心に講義をして下さった先生方、そして、受講生の所属企業の方々に心より感謝申し上げます。京都サンダーでは、“建設ディレクター育成講座”をより充実させ、これからも建設業の皆様のご要望にお応えできるよう努めます。引き続き、ご理解、ご支援いただきますよう、何卒よろしく申し上げます。



## 京都サンダー主催 CPDS認定セミナー開催 【技術者のための土質力学の基礎知識】

3月24日に京都サンダー本社セミナールームにて、CPDS認定講習会を開催。年度末にもかかわらず出席者は16名。9:00～16:00から約6時間、災害列島日本における土木技術者の課題と役割の考察、災害事例から学び災害予測に活かす技術とは何か、未然に事故を防ぐために土木力学の基礎を改めて学習。経験した例をもとに、何故そのような問題が起こるのか原因を分かりやすく解説。土木技術者としての役割の重要性、常に学ぶ姿勢を持つこと、危険やリスク、新しい情報の収集がいかに必要であるかについて深く理解しました。受講者の皆さんも、熱心に聞き入っておられました。